

■選手 A と B が対戦しています。次にあげる判定判断が正しければ○、間違いなら×とし、その理由を説明してください。

- ① 序盤に A がポイント1ゲット。その後は B が圧倒的に攻め続け、ラストには A の顔面パンチで A に注意 1 が与えられた。判定になり、B に旗を上げた。

- ② A の攻撃をかわしつつも、B は後退を繰り返している。反撃らしい反撃はしていないが最後にきれいな後ろ回し蹴りを出したので判定は B に上げた。

- ③ A の攻撃をかわしつつも、B は後退を繰り返している。場外に出るたびに旗を下に示して笛を吹き場外を知らせたが、何度も出るので旗を左右に振り反則を示した。

- ④ A の中段回し蹴りがクリーンヒット。ところが B は全く動きを止めず、残心を取った A に攻撃を止めない。旗を左右に振り、B の反則とした。

- ⑤ B の中段回し蹴りが A のガードの上からヒット。A は動きが止まり、効いているのはわかったが我慢して攻撃を返している。クリーンヒットではないので B のポイントとはせず、有利に進めた方を判定で上げることにした。

- ⑥ B の中段回し蹴りが A のガードの上からヒット。A は動きが止まり、ひざをついた。B のポイントとし、A がなかなか立ち上がらないので旗を上にあげ、一本とした。

- ⑦ A の外回し蹴りが B の側面にヒットしたが、肩に乗っただけで蹴り筋も通っていない。無効とした。

- ⑧ A の上段回し蹴りが B の顔面を何度もかすめる。だがクリーンヒットではないので旗を全く動かさず、スルーしている。

- ⑨ A の上段回し蹴りがヒットしたのだろうか、もう一人の副審が旗を真横に上げてポイントを示した。主審も手を挙げたので、見えなかったのだが同調して旗を上げた。

- ⑩ A の上段回し蹴りがクリーンヒット。はっきりと見えたので旗を真横に上げた。もう一人の副審は両方の旗を交差させて振り、無効をアピール。主審が副審を集めて協議となったのでポイントを主張した。

- ⑪ A の胴回し回転蹴りが B の顔面にガードの上からヒット。B の体が大きく揺らいた。それでもすぐ反撃できる体勢は維持している。歓声が上がり副審一人はポイントを示したが、旗を交差させて振り無効とした。

- ⑫ 試合中、主審が頻繁に動いて見やすい位置に移動していた。それに合わせて三角形を作るよう心掛け、死角をなくすようにした。